Tohoku University Hematology & Rheumatology

血液免疫科ニュースレター

Vol. 14
（2014年12月）

【発行元】 東北大学　血液・免疫病学分野 （東北大学病院　血液免疫科）
Address: 〒980-8574　仙台市青葉区星陵町1-1　Tel: 022-717-7165 / Fax: 022-717-7497
Homepage: http://www.rh.med.tohoku.ac.jp/

今号の内容

1. 巻頭言
2. 石澤賢一先生教授就任
3. 石井智徳先生教授就任
4. 秋保セミナー報告
5. ASH報告
6. 新医局体制
7. 新医局紹介

1. 巻頭言

あっという間に12月となり今年ももう少しです。

さて、今回の血免ニュースは大きな話題がいくつもあります。まず、石澤賢一先生が12月1日づけで山形大学医学部血液・細胞治療内科学の教授に就任されました。先ほど開催された日本血液学会においても全国の先生からお祝いのお言葉を頂戴し、その反響の大きさに改めて驚いています。東北の中でも山形県は血液内科医が少ない県ですが、これから石澤先生の指導力、臨床力、求心力のもと血液先進県へと変貌していくのは間違いありません。当科としてもこれまで以上に山形大学と連携して東北地方の血液学を盛り上げていきたいと思います。なお、石澤先生の就任祝賀会については別途ご案内申し上げますが、2015年1月24日に勝山館にて予定しております。先生方のご出席をお願い申し上げます。

二つ目の慶事は、12月1日付けで石井智徳先生が石澤先生の後任として東北大学病院臨床研究センターの臨床研究実施部門長/特任教授に就任されたことです。当部門長は従来の東北大学病院治験センター長にあたる役職であり、東北大学病院の治験を統括する責任者になります。国の施策として治験/臨床研究の推進は重点事項として挙げられており、東北大学病院は全国で10施設のみ設置されている臨床研究中核病院の一つとして日本をリードしていく立場にあります。石井先生は東北大学病院の中心としてその重責を担うことになり、病院全体がその手腕に期待を寄せています。

三つめのニュースは10月に新しいビルディングである医学部6号館に医局が引っ越したことです。ガラス張りの新しいビルディングの5階南向きに新医局はあり、スペースも広くなったことで、より明るい雰囲気になりました。大学にお寄りの際は是非お立ち寄りください。

7月の日本検査血液学会、9月の日本鉄バイオサイエンス学会が盛会で終了したところで、10月は引っ越しと今年もあわただしく過ぎていきました。来年はさらに飛躍の年になるよう医局員一同頑張ってまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

これから寒さが厳しくなって参ります。くれぐれもご自愛のほどを。（張替秀郎）

2. 石澤賢一先生教授就任

2014年12月1日付で、山形大学医学部血液・細胞治療内科学講座教授に着任しました。血液免疫科在籍中は、大変お世話になりました。血液免疫科に13年弱お世話になったため、挨拶をするときに、所属の部分がまだ慣れず、とまどう日々です。

またかなり環境適応能力が低下してからの新たな職場でしたが、第三内科加藤丈夫教授に全面的にバックアップいただき、また院内に顔見知りも多く、まずは順調に“船出”いたしました。
スタッフは、私を含め五名とやや“控えめ”ではありますが、三十床弱の入院患者を抱え、北の県立新庄病院、南の置賜総合病院で血液外来を開設するなどフル回転で頑張っております。
個人的には七日町（山形のミニ国分町）がかなり遠くなったため、五時以降の活動に関してはかなり抑えめのスタートとなりましたが、大学のほうが落ち着き次第、業務拡大を目論んでおります（もっとも済生館周囲は、危険区域に指定されているようですが・・・笑）。
まだ“観察期間”が十分ではありませんが、日本酒、牛肉、蕎麦がハイレベルなのはもとより、庄内からの魚介類のレベルも著しく向上したように見受けました。仙台の“隣町”ですので、ぜひお立ち寄りください。
今後ともよろしくお願いいたします。

3. 石井智徳先生教授就任

このたび、石澤先生の後任として、東北大学病院臨床試験推進センター臨床研究実施部門の特任教授に就任いたしました。
血液免疫科では准教授として、医師主導治験をはじめ多くの臨床研究を、OBの先生方の多大なご協力を頂きながら進めてくることができました。そして、これらの臨床研究遂行にあたっては、臨床試験推進センターにも、だいぶお世話になってきた経緯があります。そういったわけで今回着任することになった本部門は、私にとってある意味とてもなじみのある部署ではあります。ただ、それだけに、これまでユーザーとして大きく関わってきた部門に、今後は使う側ではなく研究の実施を支援する側として携わるということで少し戸惑いもあります。
治験はじめ臨床試験を行うということは大学の使命でもあり、本部署は、病院にとって今やなくてはならない部署であると感じています。自分のこれまでの経験を基に、東北大学を中心とした臨床研究が円滑にすすむよう、すこしでもお役に立てればと考えています。今後とも各所に渡ってご助力いただくこともあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

4.秋保セミナー報告

（2014年10月25日-26日）

今年も秋保ホテルニュー水戸屋にて第9回血液免疫病セミナーを開催しました。幸い天候にも恵まれ、研修医27名・医学生2名を含む計74名と、非常に多くの方々にお越し頂きました。

最初は中村先生による「関節炎の鑑別」についてのミニレクチャーで幕を開けました。関節痛というありふれた症候をいかに鑑別していくか？という自分らも日ごろ頭を抱えるテーマを、クイズも交えて学生にも分かりやすく解説してもらいました。続いて齋藤先生は、実際に遭遇する機会の多い血液疾患を小問形式で紹介しました。今年も昨年に引き続きアンサーパッドによる回答という形式を踏襲し、参加者は気軽に答えることができ大変好評でした。恒例の症例検討は、血液グループからはAMLの寛解導入療法中に侵襲性肺アスペルギルス症を併発した一例を、免疫グループからはSLE・IgG4関連疾患の治療中にクリプトコッカス髄膜炎を併発した一例をそれぞれ提示しました。今回の新たな試みとしてグループディスカッションを取り入れ、参加者らに実際これらの症例に遭遇したらどう対応するか、各自の意見を出してもらいました。各テーブルにメンターとして2,3名の先生を配置し、考えるべき鑑別疾患や検査・治療について、非常に活発なディスカッションを行うことができました。

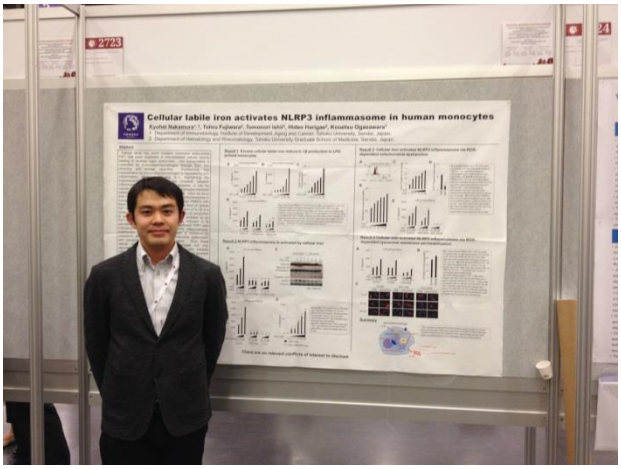
Closing seminarでは、張替先生から血液疾患の歴史とこれからの展望についてお話していただきました。古代ギリシャ時代に残された白血病の記述に始まり、19世紀の病理学者Virchowによる白血病の精緻な考察など、先達らの卓越した洞察力を礎にして現代の診療が在ることを改めて痛感しました。

そして今年の12月より山形大学医学部血液内科学の教授に就任される石澤賢一先生からは、キャリアパスセミナーを話していただきました。これまで当院での臨床研究に尽力された石澤先生に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。僭越ながら、今後ますますのご躍進を心よりお祈りいたします。

血液免疫病セミナーも、来年でいよいよ節目となる第10回目を迎えます。東北の血液免疫診療を盛り上げる一端となるべく充実したセミナーを準備いたしますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いします。（町山智章）

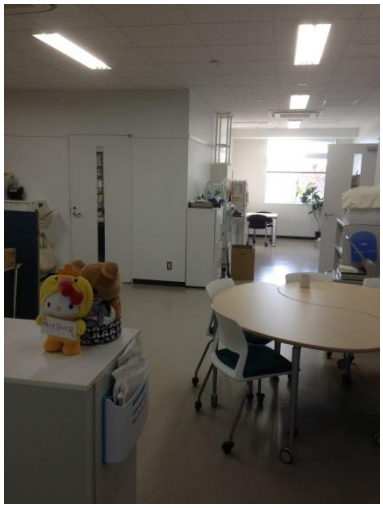
5. ASH報告

12月5～9日の日程で、第56回米国血液学会(ASH)がサンフランシスコで開催され、当科から2つのOral Presentationを含む計3演題を発表いたしました。今回は、私と大学院生の猪倉恭子先生が「鉄芽球性貧血」のテーマで、医員の中村恭平先生が生体における炎症応答に重要な「インフラマゾーム」と鉄との関連について研究成果を発表しております。3演題いずれも鉄に関わるテーマでしたが、ちょうど鉄代謝制御の領域における第一人者であるTomaz Ganz先生が本会で受賞(Donnal Thomas Lecture)されるなど、学会全体を通じて鉄はホットな領域であるということを実感しました。猪倉先生は英語での口頭発表は初めてで、正直なところ自分自身の発表よりも肝を煎る思いでしたが、結果的には杞憂であり、大変落ち着いた発表ぶりでした。また、中村先生のポスターの前には人が途切れることなく、このテーマへの関心や期待が示されたものと思います。
サンフランシスコは数カ所でほぼ固定されているASHの会場の内、最も観光に適した都市であると思います。発表終了後は、サンフランシスコ湾内にあるアルカトラズ島（かつては監獄島）をみんなで訪れ、例のごとくレストランで食べ過ぎてしまい、重いお腹をかかえて坂の多い市内をはるばる徒歩でホテルまで戻ったのが思い出です。
本学会では、中村先生と猪倉先生がASH Abstract Achievement Award を受賞しております。本賞は、学生・ポスドクを対象に優秀演題に対して授与される栄誉あるものです。これからも引き続き、ASHでの発表報告が出来るように研究室の環境整備・活性化に貢献していければと思います。(藤原亨)



6. 新医局紹介

2014年10月に、血液・免疫科の医局は医学部6号館の5階に引っ越しました。
外観、内部の写真です。



7. 新医局体制

平成27年1月より、医局の体制が下記の様に新しくなります。
まだまだ未熟なところもあり、ご迷惑をおかけするところもあるかもしれませんが、張替教授のもと医局員一同、血液免疫科をますます盛り上げていけるよう鋭意努力する所存です。
今後も御指導御鞭撻のほどよろしくお願いします。(藤井博司)

医局長、副診療科長、准教授；藤井博司
教育担当、講師；大西康
リスクマネージャー、講師；福原規子
病棟医長、院内講師；沖津庸子
外来医長、院内講師；城田祐子